

建築関連資格スクーが、17年度から20年度まで、建築士にチャレンジする大
 ル・総合資格学院を運営 58・3%、57・3%と増加 層が増加していると推察
 する(株)総合資格 (本社 東京都新宿区、岸隆司社 傾向が続き、21年度は される。加えて、近年の
 長)は、先ごろ行われた 61・7%、本年度は64・6 「業界における若手技術
 平成23年度2級建築士 %となり、17年度からは 者の不足」により、企業
 学科試験の合格発表を 11・8ポイント増加し、 側の社員に対する早期資
 受け、総評を発表した。 高学歴合格者の増加傾 格取得の要請が強まり、
 それによると、23年度 向がいまだ続いている。 新卒を始めとした若手社
 2級建築士学科試験の また、年齢別では「24才 員が積極的に資格取得に
 合格者数は8784人 以下」の合格者の構成比 動いたことも「24才以下」
 で、前年より1617人 率も近年上昇し続けてい の合格者構成比率が増加
 減少しており、近年では たが、本年度に遂に4割 した要因と考えられる。

2級建築士学科試験の合格者

24才以下が4割超

最も少ない合 合格者数となっ
 た。合格率は
 前年より1・
 2ポイント下がり、38・
 2%。合格率は例年30
 %台で推移しており、大
 きな変化は見られなかつ
 た。なお、合格基準点
 は、総合点が60点、各科
 目が13点で、6年連続し
 て補正はなかった。

2ポイント下がり、38・
 2%。合格率は例年30
 %台で推移しており、大
 きな変化は見られなかつ
 た。なお、合格基準点
 は、総合点が60点、各科
 目が13点で、6年連続し
 て補正はなかった。

資格発表 総合評 総総

その他、合格
 者属性の特徴
 的な内容とし
 て、本年度より

この背景には、20年の 務内容別で、「学生・研究
 建築士法改正に伴う1 生」の区分が新たに設け
 級建築士の受験資格要 られたことがあげられる。
 件の厳格化等により、大 「学生・研究生」区分の構
 成比率が新区分として、
 建築士を受験できる対象 追加されるレベルに上昇
 者が減少したことによっ したということが推測で
 合格者属性をみると、 1級建築士の受験資 格を得られる期間を有 する。その要因として
 受験資格別で、主に大学 格を得られる期間を有 は、昨今の大卒就職事情
 の指定学科を卒業し、実 効に活用し、確実に2級 の影響があり、学生の資
 務経験なしで受験可能な 建築士を取得し、実力と 格取得意識の高まりもそ
 「学歴のみ」の構成比率 経験を積んでから1級建 の二つと考えられている。